

西濃地域産業人材育成講座事業報告

竹内 治彦*

平成17年度の西濃地域の産業立地に関する検討を踏まえ、平成18年度は、そこで検討されたことを実践に移すべく(株)大垣共立銀行、(株)共立総合研究所、岐阜経済大学地域経済研究所の共済による、産業人材育成のための講座を開講することとした。

当講座の概略は以下にとおりである。

- テ ー マ 「産業人材育成3次元CAD講座」
趣 旨 平成17年度の共同研究を受け、地元産業を振興するために、地域の人材力を高める研修活動を行い、西濃地域の産業力の強化に具体的に貢献する。
主 催 (株)大垣共立銀行、(株)共立総合研究所、岐阜経済大学
後 援 岐阜県、(財)ソフトピアジャパン、大垣市
期 間 平成19年2月23日(金)・24日(土)・25日(日)の3日間
開講場所 岐阜経済大学 情報センター

講座の概要はSolidworksの基本操作に、工場見学、座学を加えたもので、2005年度に岐阜県ならびに大垣商工会議所の委託で実施した講座とほぼ同内容となっている。今回初めて実施したのは、工場見学であるが、(株)丸順金型事業本部から、金型産業における3DCADの利用の実際について、視聴覚資料をふんだんに利用した説明を受けることができ、たいへん有意義だった。こうした見学の場合には、工場のラインの流れについて説明いただくのに止まるのが通常のことであるが、(株)丸順金型事業本部では、業界での様々な取組のために説明用の資料をお持ちであり、それらを利用したうえで、さらに、技術だけではなく、ものづくりのために技術をどう活かすかが重要であるとのコンセプトにたった体系的な説明を受けることができ、たいへん有意義な視察になった。

受講生については、それほど大規模に募集をかけていたわけではないが、無料の講習ということもあり、それほど困難はなく集めることができた。とくに、週末の日程にしたところ、実際に求職中の男性の応募が複数あった。大学で

講座日程

月・日	時間	内 容		講 師
2月23日(金)	9:30 ~12:00	企業 見学	(株)丸順上石津工場	大垣・職業センター
	13:00 ~16:30	実習①	モデリングの基礎、アセンブリの基礎	
2月24日(土)	10:00 ~16:30	実習②	アセンブリの基礎、図面作成の基礎、回転フィーチャー、スイープフィーチャー	
2月25日(日)	10:00 ~15:00	実習③	ロフトフィーチャー、直線パターン、演習問題	共立総合研究所 古田千尋調査部長 岐阜経済大学 竹内治彦キャリア支援部長
	15:00 ~16:30	講義	「西濃の製造業」 「製造業における人材育成の課題」	

受講条件 製造業への就業を予定されている（若しくは就業間もない）方で、Windowsの操作経験があり、CADに関心のある方。

受講生数 10名（社会人を含む）先着順

*岐阜経済大学経営学部教授（キャリア支援部長）

の昼間の講座となると、どうしても主婦層の受講が多くなるのだが、こうした方の受講があったことは、週末開講の意義があったということができるだろう。とはいえ、3日間で操作の基本だけを学ぶ講座なので、仕事に使うには不十分な内容でいささか中途半端な感否めないが、このような講習に対して潜在的なニーズがあることを示していると評価している。

規模的には、設備つまりはCADソフトをインストールしているパソコンの台数や、講師1名が担当できる受講生数に限りがあることから、どうしても10名程度になってしまうのはいたしかたないところである。実際、CADの講習時や、企業訪問の時には、規模が小さいという感じはなかった。ただ、座学の講義中は、聴講者が10名ということで、少なさが感じられたかもしれない。目下のところ、1回当たりの規模はそれほど拡大することなく、回数を積み重ねながら実績をあげていく方法がもっとも効果的なのではないだろうか。

総括と今後の展望

岐阜経済大学が、地域の企業や機関と連携して、産業力強化にいかなる貢献を果たせるのか、という問いに対して、産業人材育成のための講座の開講は、具体的で実際に成果もあがるものであり、評価できるものであると考える。西濃地域の産業発展に関する研究活動は必要であり、そうした蓄積を積み上げることもちろん必要だが、研究として行われているだけでは、それは実際の産業力強化のための具体的成果をどのようにあげるかという課題は、別に残されてしまう。その意味で、今回、(株)大垣共立銀行と(株)共立総研からの要望によって、このような講座を運営する機会を得たことは、実践に踏み出すということで、3者にとって意味があったと思われる。3者それぞれに、地域において、単に研究するだけでなく、実践することも期待される存在なので、人材育成に具体的に着手するという今回の提案はまことに時宜を得たものであった感謝している。

産業人材の育成という点で、岐阜経済大学の

役割はやはり限定されるのかもしれない。理系・技術系の大学ではなく、高度な専門性の追求という点では、工学部などを設置する大学の役割を果たすことはできない。しかし、だからこそ、果たしうる役割というのものもあるかもしれない。地域の労働市場を見ると、全体の有効求人倍率は高く、雇用情勢は良い。そこで、中小の製造業では、人材が足りない状況が続いている。しかし、そもそも今の日本やこの地域では、理系技術系の勉強をして、その分野を初めから志向している人の数が多くはない。そのような情勢下、技術系の学部などを設置しても、それほど多くの学生が集まるといことは期待できないかもしれない。凡そ、学ぶニーズという点では、工学系を中心とする理系技術系分野は漸減傾向がずっと続いているのである。

しかし、少し働いてみると、違った感想を持つ人もいる。今のところ、好景気もあって、サービス関連での雇用も良く、時給単価も高くなっている。そのため、その分野で働く人が増えているのだが、そうした分野での雇用は流動的であり、とくに非正規での雇用が増えている状況にある。また、高いレベルでのコミュニケーションが求められ、そうしたものに負担を感じる方もおられるようだ。そこで、文系で学び、第3次部門での仕事を選んだが、やはり、活況を呈している製造業で働くのが向いているのではないかと考えるようになる人もいようだろう。岐阜経済大学が、産業人材の育成ということで、貢献していくことができるとすると、そうした人たちに対して、製造業で管理的な仕事をしていくための入り口の知識とスキルを提供していくような教育ではないだろうか。もちろん、OJTによる研修は大事であり、いくら管理的な仕事に将来就くにしても、製品知識や製造に関する知識は必要なので、相当程度の現場でのOJTが必要なのは言うまでもなく、最終完成形までは訓練に到達できないのは無論なのだが、少なくとも入り口前の方向転換を後押しする役割は果たせるのではないかと考えている。

また、近年の求人ニーズを見ていると、モノの流れを管理するような仕事の担当者のニーズ

が高まっているような感想を持っている。生産管理というと、工学系の技術者の仕事の感がある。これは、モノづくりそのものに関わった管理の仕事なのだが、それを包括的にサポートするような仕事も実際に存在する。例えば、受注に応じて、資材と人員が調達されて生産がなされ、出荷されていく、そうした流れのうち、とくにモノの流れの部分を全体的に管理する仕事を担当できる人材のニーズが近年高まっているように感じている。ちょうど、商店の店長が、売り上げに対して、適切に発注をかけ、商品が適切に陳列されているように管理するノウハウが求められることの、製造業版のような力が求められているのである。これも JIT システムの一側面であり、生産管理の一部なのだと言ってしまうこともできるのだが、現場の方々と話していると、技術的な部分の知識スキルはそれほど強く求められておらず、生産の現場に近いところで、生産全体の流れがスムーズに流れるように調整する仕事が現にあるように思われるのである。実際、岐阜経済大学からの卒業生では、そうした仕事に対する人材の候補として採用される学生が多い。こうした力も、本来、文系の大学である岐阜経済大学がとりくんでいけるような分野に思われる。

産業力強化、産業人材の育成というと、理系の仕事と限定してしまわずに、文系の大学なりに地域の産業の力となる役割を果たしていけるのではないか。そんな取組の、はじまりのほんの小さな一歩には、今回の取組はなつたと総括している。

産業力強化の研究を産業人材育成の取組へと発展させるヒントをくださり、また講座の運営にご尽力いただいた、榊大垣共立銀行、榊共立総研の担当者各位に改めて深く感謝を申し上げたい。